

令和5年度 地域きずな座談会 ⑦

- 1 日 時 令和6年2月29日(木)
- 2 場 所 大津社会福祉センター
- 3 出席者 大津、浜三沢、三川目、鹿中、淋代、前平
(住民10名、地域生活支援コーディネーター1名、三沢介護支援センター1名、
三沢市介護福祉課2名、社協4名)
- 4 懇談記録

■地域の現状・よいところ

○現状

- ・町内会加入世帯は150世帯程だが、総会の参加者は役員を除けば40人程である。そのうち30人くらいは女性である。
- ・役員15名中、日中仕事をしている人は12人。あまり機能しないかも思っていたが、様々な行事に声を掛けると活躍してくれる。組織がとても良いと感じている。
- ・若い世代が町内に家を建てて住んでいるケースが7、8軒ある。町内に移住して来た人も3軒ほどある。今後若い人たちも、子供も増えていけば希望が持てる。
- ・三沢漁港がある。昔は三川目漁港という名前だった。今は「昼いか」に力を入れている。震災の時は津波の被害があった場所でもある。
- ・津波の被害が一番大きいのは三川目と想定される。東日本大震災を機に毎年防災訓練を行っている。今年は防災管理課の方を呼んで話を聞き、様々な想定をしながら避難経路を再度確認したい。
- ・昔は、除雪作業しながらそりで遊ぶための坂を作ったり、スケートリンクを作ったりしていたが、現在はなくなった。
- ・淋代保育所は通勤ルートの関係もあるのか定員いっぱいである。

○よいところ

- ・漁港が近いため、花火大会等行きやすい。
- ・声掛けをしたら人は集まる、協力してくれる人が多い。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんが一緒に住んでいる家庭も多く、若い人は行事に参加できなくてもおじいちゃん、おばあちゃんが参加することが多い。一緒に住んでいるということは良い環境である。
- ・飛行機の騒音により、平成17年に33世帯が、園沢に移転した。集会所が新しくなり、役員も若い方で構成されている。問題点解決の為に一致団結して頑張っている。
- ・ゴミかごをすべて改修したら、意識が変わった。

- ・ 神社の境内、集会所周りに除草剤を使い作業が楽になった。
- ・ 高齢者等支援が必要な方の除雪作業を手伝っている。
- ・ 個人情報の取り扱い規程、管理の方法等を町内会員と共有し、安心して個人情報を提供してもらえるようにしている。
- ・ 町内に小、中学校、児童館、公園があり、招和台公園が一番大きいがその中に神社があり、昔ながらの形がそのまま残っている。地域住民の意識をつき詰めなくても方向性が似通っていて、地域の協力が必要な部分は自然と協力できるような雰囲気がある。
- ・ 子供の人数が減っているためか、登校時の子供たちの声が聞こえなくなった。帰りは声が聞こえるのでほっこりする。

○消防団

- ・ 消防団の団長を町内会の役員の一員としているが、消防団の団員は足りていないのが現状である。
- ・ 消防団が、お盆や正月に見回りをしてきていることがありがたい。
- ・ 消防団の団長をやると町内会長をやらなければならないという流れがあるが、スタッフが 20 名いて、とても恵まれていると感じる。

■地域の交流・集いの場

- ・ 桜を見る会を開催している。毎回参加する人は同じだが、子ども会にも声を掛けるため、三世代で参加する家庭もある。
- ・ 春先に花壇の植え付けをしている。以前花壇コンクールで優勝した事もあったので続けていきたいが、高齢化してきているため下火になってきている。
- ・ 春のクリーン作戦や行事の案内を出すと皆参加してくれるが、毎年同じ行事ばかりではマンネリ化してくるので、少し違った行事を考えていきたい。
- ・ あじさいクラブ（老人クラブ）の活動で 100 歳体操を年 2 回続けているが、とても良い体操なので月 1 回、2 回と回数を増やしていきたいと思っている。
- ・ 老人クラブの活動が活発。活動内容として「陶芸」「そば打ち教室」「料理教室」「認知症勉強会」「絵手紙教室」「バス旅行」等。他町内からも参加者がいる。
- ・ 町内会の役員とわらび会（老人クラブ）でお盆と、春、秋の彼岸の時に、墓地清掃と薬剤散布をしている。大津、四川目の霊園はすごくきれいで自慢である。
- ・ 四川目の金毘羅神社に年末になるとのぼりや提灯をつけるが、これも町内会の役員とわらび会でやっている。協力して作業できていることがとても良いところである。
- ・ 近所の子どもの登下校時、声掛けをして見守りを続けてきた。自宅でミニ動物園を作っており、近所の子どもの動物と遊びに来るが、このような昔ながらのつながりができるのは良いことである。

- ・鹿中、大津の子ども会で交流レクリエーションを開催した。皆楽しく参加していた。
- ・民生委員の老人部会の活動でコロナ前は地区の集会所でご飯を作って食べてもらう、という活動があったが、今後また再開していく予定である。
- ・他の町で、町の行事があると、会場入り口で血圧測定、健康相談を行っていることがあるが、健康、長生きについてよく考えられていると感じた。

■地域の困りごと、課題

- ・赤い羽根の寄付を集めているが、初めから金額を提示されていると、寄付をする気がなくなる等、会員から話があり、何軒か説明に行った。もう少し違うやり方はないか。
- ・浜三沢は今、本村地区と園沢地区と分断されており、コミュニティを壊さないよう再構築していかなければならない。
- ・集会所の床はコンクリートの為、高齢の方にはつらいのではないかと考えている。

○住民の情報

- ・町内の世帯数、構成員がわからない。
- ・民生委員として一人暮らし調査をしているが、名簿では一人暮らしだが、実際は世帯分離して、家族と同居している方が多い。
- ・名簿を作る際、同居しているが世帯分離している人を分かるようにしてほしい。それによって災害時の対応が変わってくる。
- ・町内に何世帯、何人住んでいるか把握するため、リストが欲しい。事前にわかっていたら何かあった時に早い段階で助ける事ができるのではないか。

○認知症の方について

- ・個人情報になるが、認知症の方の情報を町内に教えてほしい。知られたくない家庭もあると思うが、行方不明になって二日後に発見されたという話を聞いて、もっと早く聞いていたら何かできたのではないかと思った。昔は消防団に捜索要請があったが、最近はない。地域で情報共有できるものが欲しい。
 - 介護福祉課では徘徊する可能性の高い方を登録するシステムがある。前後左右の写真と申請された個人情報を登録している。
 - 認知症の方が行方不明になったとき、市内の登録された企業（会社、銀行等）にお願いして皆で探すというシステムがある。
 - 相談したいことがあれば介護福祉課まで連絡してほしい。
- ・シニアライフ大津と町内会で災害時の対応や協力体制について話し合っているがあまり進んでいない。施設と町内会だけでなく、市も一緒に話し合いをしたほうがよいのではないか。

- ・地域のつながりで、普段からちょっとした声掛けをしていく事で認知症の方等の見守りができる。協力しあえる地域なので情報共有しながら良い方向に進めればよい。

■その他

- ・三沢の南寄りの地区で、一川目、二川目、川を挟んで三川目となるが、現在は間において、六川目となっている。移転で四川目、五川目と住む人がいなくなりましたが、四川目、五川目の名称、町名、地域はなくさないでほしかった。
- ・三沢市には風の影響を受けやすい地域があり、飛行機の離発着にも影響がある。天気予報でもう少し詳しく三沢市を取り上げて良いのではないか。

■避難行動要支援者名簿と個別避難計画について、介護福祉課より別紙資料にて説明。

- ・介護認定を受けていない方で、対象になりそうな方もいると思うが、そういう人たちは名簿に載るのか？
→同意があれば載る。市で登録されていない人は、地域の方からお話を聞いて進めていく。
- ・認知症の方で自分で判断できるか危うい状態の方からの同意はどうやって取るのか。
→この名簿の登録に関しては代理でも良い。